

グリーン購入事業所見学会開催報告書

■見学日：平成25年7月10日(水)

■見学先：(1)六丁目農園(仙台市若林区六丁目字南97-3 e-環境仙台ビル1F)

(2)株式会社オイルプラントナトリ(名取市下増田字広浦52-3)

①事務所・第2工場

②リサイクル施設(第一工場・第二工場)

(3)株式会社ささ圭(名取市植松字入生48-1 他)

①本社・工場

②手造りかまぼこ工房

■参加者数：28名

東日本大震災の復旧・復興が進む中で、身近にできる環境配慮行動である「グリーン購入」の考え方を取り入れて事業を継続させていくことが重要となっていることから、甚大な津波被害を受けながらも苦難を乗り越え、環境に配慮しつついかに立ち直ったかを現場見学を通して参考にしていただくため、見学会を開催しました。

みやぎグリーン購入ネットワーク会員、環境会議所東北会員、みちのくEMS認証取得者など28名の参加がありました。

■六丁目農園(昼食)

始めに昼食会場の六丁目農園へ。有機農法による野菜を中心としたビュッフェレストラン六丁目農園(株式会社アップルファーム)代表取締役 渡部哲也氏からレストランの概要をお話いただきました。

厳選農家の有機野菜、形が悪いだけで販売されない新鮮な野菜を使って、素材を活かした料理を提供している。障害を持った従業員を多く雇用しているのは、障害者に働く場を提供し自立の道を歩んでほしいためだという。

豊富な種類の野菜中心とした料理をバイキング形式でいただき、参加者同士、食事をしながら和やかに交流を深めていました。



渡部代表取締役



■株会社オイルプラントナトリ

2012年度第14回グリーン購入大賞審査員奨励賞を受賞した産業廃棄物処理業の株会社オイルプラントナトリでは、星野豊常務取締役から「環境への取り組み事例紹介」及び東日本大震災の被害状況について説明を受け、続いて工場を見学しました。

——廃食油を資源化する技術を試行錯誤の後確立させ、バイオ・エコ燃料精製プラントを造り生産性の向上、品質の向上、コスト削減を図っている。中でも工程から発生する全ての廃棄物をリサイクルしているのは日本ではオイルプラントナトリだけである。

カーボンニュートラルを実現し、小学生から大学生、様々な団体の見学を受け入れ環境教育にも力を入れ、開かれた企業となっている。

平成23年4月7日放送のテレビ番組の録画「震災後8日後に事業再開を果たしたBCP：事業継続計画」の上映があり、災害時はどのように連絡、何を優先するか計画し、緊迫した状況でどの事業で生き残れるようにするか決めておくことが重要である。

中核事業の選定は、①取引先からの安定処理 ②顧客への安定供給 ③収益性など5項目から評価し「再生重油」と「油水加工」に決定した。単独でBCPを行っても立ち行かないこともあるので、「共助」他社に依頼することも計画に入れることが重要と説明があった。

人的被害はなかったものの、津波により工場の流失・破損、収集車両、リフト、営業車、従業員の車両が流され大きな被害を受けた。震災後は、大型タンクローリーなど夜間は、工場から4km内陸部に駐車している。震災時、二次災害の防止のため、家庭から流失した灯油タンクの回収、ガソリンスタンドの燃料の抜き取り、漁船の油の抜き取り、自社流出物の回収に奔走したという。

<早期復旧につながったポイント>

① 「中核事業の選定」

複数存在する事業のうち、優先的に復旧させる事業の選定によって目標が明確化することで迅速な行動がとれる。

② 「同業他社と連携」

別地域の同業他社との間で、緊急時における協力体制を構築することで、自社では処理できない工程を同業他社に担ってもらうなどの対応をすることができ、早期の事業復旧につながる。

③ 「手元資金の用意」

現金を保有しておくことで、緊急時の倒産リスクを軽減させることができるほか、復旧の諸対応に必要な設備の購入も可能。

<復興で必要なチカラ>

① 財務・収益力(健全な企業体が維持出来ていないと金融機関・取引関係からの支援は厳しいものがある)

- ② 組織・経営力(「次流嗅技」常に先を読む臭覚と感度の良い経営スタンスとチーム・ネットワークの構築)
- ③ 事業力(企業価値を常に向上させ、社会に必要な事業・地域貢献をしていく)



<参加者の声>

- ・講演等で話はお聞きしたが、実際にプラントを視察できたことでより環境意識が高まった。
- ・大変なご苦勞による成功への道が理解出来ました。
- ・エコ活動の取り組み内容が幅広く素晴らしい。
- ・BCP 及び油を再利用しての取り組みが良かった。

■株式会社ささ圭

蒲鉾製造販売業の株式会社ささ圭では、本社・工場（名取市植松）及び手造りかまぼこ工房を見学しました。雑菌防御のため手の消毒、白衣、キャップ、マスク、足カバー着用で完全防備、いくつもの厳重な入口を通過し全身消毒を行った後、製造工場内に入りました。

——名取市閉上にあつた本社社屋、主力工場、本店の全てを大津波で流出したが、内陸部に唯一残った売店を改造し、ささ圭の笹蒲鉾製造再開を望む全国からのお客様の声に励まされ、再建を決意した。機械も何もない中、会長夫妻から手作業で笹かまぼ

こを作る技を社員が指導を受け、50年前の幻の製法を今に蘇らせ、「手造り笹かま工房」として平成23年7月1日に再オープン。そして平成24年9月新工場を竣工した。現在は手造りの製品と工場で製造する製品の双方共に「新生ささ圭」の顔となっている。

本社工場の笹かまライン、揚げかまラインは機能重視のコンパクトな造りで、衛生面が厳重管理された工場であり、排水の循環も考慮されています。包装紙や資材の高騰については、同じ包装紙を使用してシールなどで対応している工夫も紹介されました。

続いて名取市増田の手造り蒲鉾工房へ移動して、91歳の会長夫妻らが店の入口の工房で作業している様子を見学しました。手造り蒲鉾の試食をしながら、佐々木圭亮代表取締役から震災時の状況などお話を伺いました。

震災で50人いた社員のうち3人が犠牲になり、先の見通しが立たない中、震災直後に全社員に解雇を告げた。しかし、取引先や得意客に励まされ再建を決意した時、「工場が再開したとき、戻りたい人は受け入れる」と伝え直したという。経営者、従業員の復興への強い情熱が伝わってきました。手造り用蒲鉾はより厳選された材料を使うため、ふっくらと厚みがあり魚本来の美味しさが生きており、多くの参加者が買い求めていました。



<参加者の声>

- ・ 工場内の衛生面が大変良い。復興＝福興に頑張ってもらいたい。
- ・ 品質管理が徹底され、震災後も皆さんで頑張ってもらえたことが伝わってきました。
- ・ 笹かまも美味しかっただけでなく、スタッフの皆様の明るい笑顔に力をもらいました。

<見学会全体の参加者の声>

- ・ 六丁目農園の食事をはじめ大変良い体験をさせていただきました。オイルプラントナトリ様が全国でも珍しい取り組みをして、結果を出していることで大変勉強になりました。
- ・ 食事がとても美味しく、障害者の皆様のために開いたお店と聞き、さらに味わって食べたいと思いました。
- ・ 六丁目農園と笹かまが美味しかった。プライベートでまた行きたい。
- ・ とても楽しい見学会でした。一緒に参加した方たちと楽しく会話もできました。お互いの環境への取り組みなども話し合え、有意義に過ごせました。ぜひ、また参加したいです。
- ・ 特に被災した2社は東日本大震災で被災した事業者でしたが、困難を乗り越えて再興された熱意を強く感じました。社会に貢献する仕事を通じて環境改善に取り組まれる姿が頼もしく感じました。
- ・ 当社も全壊したので、今までの苦勞がよくわかります。
- ・ 他の業種の方と交流ができよかった。
- ・ 仕事に対するやる気を再確認させられたいい研修でした。また参加したいと思います。
- ・ ささ圭さんの手焼かまぼこは本当に美味しかったです。がんばれ！
- ・ 一日とても充実していました。全く違う業種でしたが、とても共感できる面が沢山あり、とてもいい勉強になりました。

以上